

# 令和7年度 連携排砂に伴う環境調査計画（案）について

## ～ 目 次 ～

1. 調査の基本的な考え方	1
2. 環境調査の変更点	2
3. 調査内容	4
4. 環境調査位置図	5
5. 環境調査一覧表	7
6. 環境調査における調査項目と数値のもつ意味について	11

# 調査の基本的な考え方

- (1)環境調査の基本的な考え方は、平成8年度から継続的に行っている調査と同じである。  
 (2)環境調査は、定期調査(排砂・通砂期の前・後の平常時)と排砂・通砂・細砂通過放流中の調査よりなる。

(凡例) ●:調査頻度 : 調査項目変更箇所												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全 体 工 程												
実 施 項 目		定期調査	排 砂 ・ 通 砂 中	定期調査	定期調査							
水 質	ダ ム	●	● ※排砂・通砂の1日後	●								
	河 川	●	● 排砂・通砂中および※1日後	●								
	海 域	●	● 排砂・通砂中および※1日後	●								
底 質	ダ ム	●				●						
	河 川	●				●						
	用 水 路	●				●						
	海 域	●				●						
水 生 生 物	河 川	●				●		●				
	海 域	●				●						
測 量	河 川							●				
	ダ ム		●	● (排砂・通砂後速やかに実施)	●			●				

※排砂・通砂が終了した1日後の調査を基本とするが、ダムから越流しているなど、調査時の安全性が確保できない場合は、近々の調査可能日まで延期する場合がある。

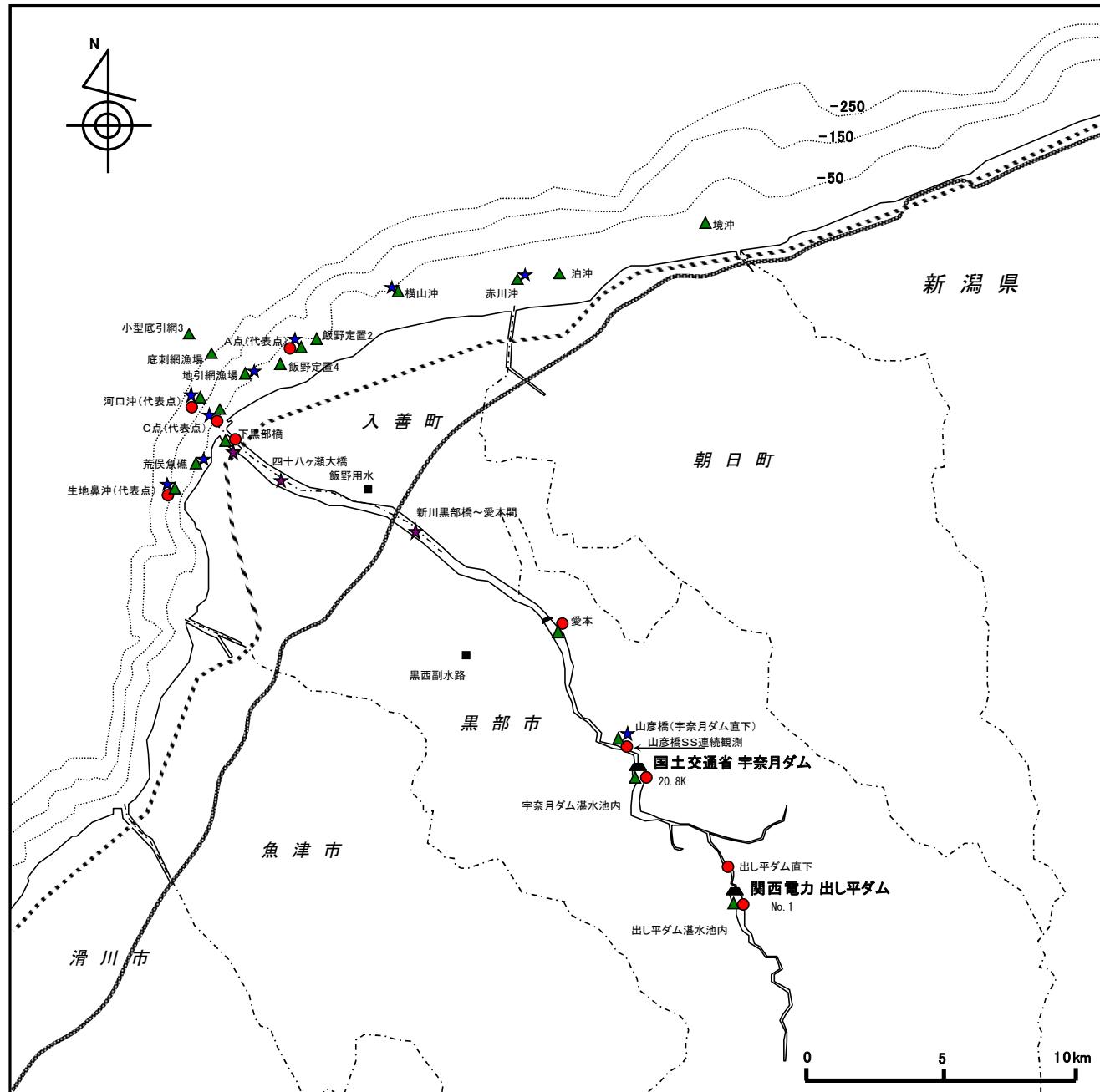
# 環境調査の変更点

項目		R6年度調査	検討内容	R7年度調査 (計画)
測量	ダム	<p>調査時期 5月、排砂・通砂後、11月</p> <p>調査地点 全測線</p> <p>調査内容 堆積土砂量</p>	<p><b>【堆砂測量のスマート化】</b> 出し平ダムの排砂期間前における堆砂測量のスマート化の試行。 シミュレーションと一部の測量データをもとに堆砂量および堆砂形状を推定する。 なお、R7年度は従来の測量も並行して実施する。</p>	<p>調査時期 5月、排砂・通砂後、12月</p> <p>調査地点 <b>一部測線</b> 全測線</p> <p>調査内容 <b>堆積土砂量（シミュレーションにより算出）</b> 堆積土砂量</p>



# 定期調査(5月・9月・11月)

凡例



● : 水質調査※<sup>1</sup>

(ダム2、河川4、海域4)

▲ : 底質調査※<sup>1</sup>

(ダム2、河川3、海域14)

■ : 堆積量調査※<sup>1</sup>

(用水2)

★ : 水生生物調査※<sup>2</sup>

(定期調査)

(河川2、海域8)

★ : 水生生物調査※<sup>3</sup>

(5月～8月調査)

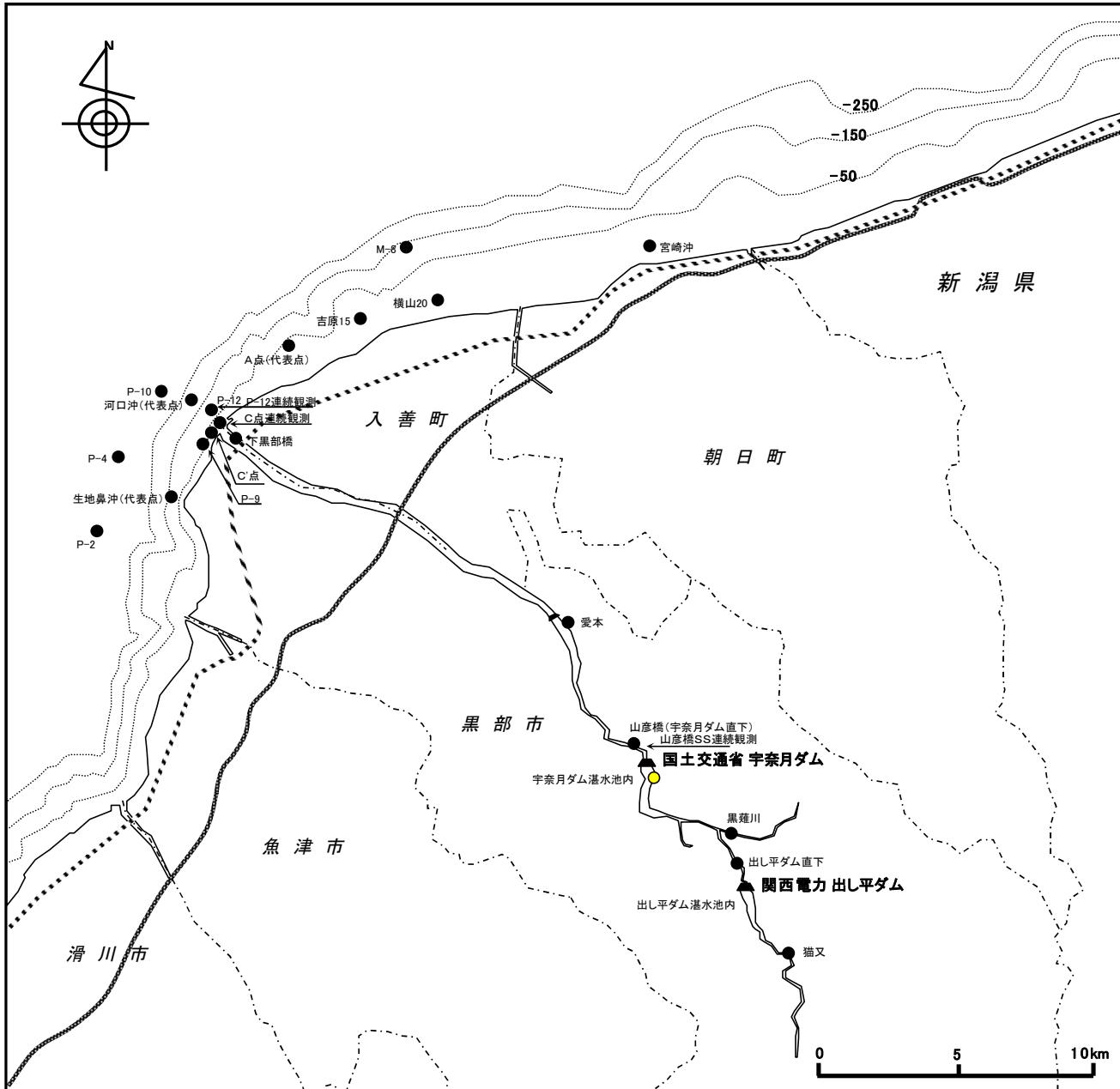
(河川3)

※1 : 5月、9月の2回実施

※2 : 5月、9月の2回実施

※3 : 5月～8月の間、概ね2回/月実施

# 排砂中調査



凡例  
● : 水質調査

(河川 6) うち、愛本、黒薙川はSSのみ  
(海域 1 4 <4+10>)

(海域連続観測: 2 地点)

● : 水質調査  
(ダム 1) : 排砂 1 日後のみ









# 環境調査における調査項目と数値のもつ意味について

## ★ 水質調査項目

項目	定義	数値の示す意味 小 ←———— 数値 ————— 大
pH	(水素イオン濃度) 酸性またはアルカリ性の程度を示す。  河川AA類型: 6.5~8.5 海域A類型: 7.8~8.3  JIS K 0102.12.1 ガラス電極法	酸性 中性 7.0 農水産物に被害 農水産物に被害
BOD	(生物化学的酸素要求量) 水中の有機物が微生物により分解するときに消費される酸素の量であり有機物の大小を示す。  河川AA類型: 1mg/l以下  JIS K 0102.21 (生物化学的酸素消費法) JIS K 0102.32.3 隔膜電極法	有機物が少ない (清浄) 有機物が多い (汚染)
COD	(化学的酸素要求量) 水中の有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸素の量であり有機物の大小を示す。  海域A類型: 2mg/l以下  JIS K 0102.17 100°CにおけるKMnO <sub>4</sub> による酸素消費量	有機物が少ない (清浄) 有機物が多い (汚染)
SS	(浮遊物質量) 水中に浮遊する粒子の量を示す。  河川AA類型: 25mg/l以下  環告第59号付表9 ガラス繊維ろ紙重量法	濁り小
DO	(溶存酸素量) 水中に溶けている酸素の量を示す。 河川AA類型: 7.5mg/l以上 海域A類型: 7.5mg/l以上 魚類窒息: 2mg/l以下 [ 排砂中止基準 : DO≤4mg/l ] JIS K 0102.32.1 よう素滴定法 JIS K 0102.32.4 光学式センサ法	酸素少ない (汚染) 酸素多い (清浄)
濁度	水の濁りの程度を示す値であり、カオリン(白陶土)1mg/l=1度である。  水道水: 2度以下  JIS K 0101.9.2 透過光濁度	濁り小
塩分	水に溶けている塩類(塩化ナトリウム、硫酸マグネシウム、硫酸カルシウムなど)の程度を示す値である。  海洋観測指針8.2.5 (塩分計分析法) 実用塩分式	河川水の流入多い 河川水の流入少ない
EC (伝導率)	水が電気を通す能力の程度を示す値であり、単位は、 $\mu\text{S}/\text{cm}$ (マイクロジーメンス パー センチメートル) である。  我が国の河川の平均的な伝導率は120 $\mu\text{S}/\text{cm}$ 、海水は約45,000 $\mu\text{S}/\text{cm}$	河川水の流入多い 河川水の流入少ない

## ★ 底質調査項目

項目	定義	数値の示す意味 小 ←———— 数値 ————— 大
COD	(化学的酸素要求量) 有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸素の量であり、有機物等の濃度の大きさを示す。  〔水産用水基準で 汚染の始まりかかった泥 : COD≥20mg/g〕  底質調査法 II.4.7 KMnO <sub>4</sub> による酸素消費量	有機物が少ない (貧栄養) 有機物が多い (富栄養)
強熱減量 (1L)	試料を強熱する際に生じる質量の減少率であり、底泥の有機性汚濁の程度を示す指標として最も簡便な方法である。有機物含有量が多いと大きな値を示す。	有機物が少ない (貧栄養) 有機物が多い (富栄養)
T-N	(全窒素) 亜硝酸イオン、硝酸イオン、アンモニウムイオン及び有機態窒素含有率の合計であり、富栄養化が進んでいると大きな値を示す。  ※栄養状態により値が変化する。  底質調査法 II.4.8.1.2 インドフェノール青吸光光度法	(貧栄養) (富栄養)
T-P	(全リン) リン酸イオン及び有機態リン等の含有率の合計であり、富栄養化が進んでいると大きな値を示す。  ※栄養状態により値が変化する。  底質調査法 II.4.9.1 硝酸一過塩素酸分解法	(貧栄養) (富栄養)
ORP	(酸化還元電位) 土壤中(液)の持つ酸化力(+)又は還元力(-)を示す。還元性を示す程、土壤変質の影響が大きい。  底質調査法 II.4.5 ORP計による方法(水素電極基準)	還元性(-) 0 酸化性(+)
硫化物 (T-S)	硫黄と水素、カルシウム又はナトリウム等の化合物で還元性(腐敗性)環境下では大きな値を示す。  〔水産用水基準で 汚染の始まりかかった泥 : 硫化物≥0.2mg/g〕  底質調査法 II.4.6 水蒸気蒸留一滴定法	酸化性 還元性 (腐敗しやすい度合)

- 河川 AA 類型 : 環境庁による「生活環境の保全に関する環境基準」において、河川で最も厳しいとされる基準値
- 海域 A 類型 : 同上の基準において、海域で最も厳しいとされる基準値
- 水道水 : 厚生省による「水道水質基準」において、水道水の満たすべき基準値
- 底質は、水と比較するよりも、土壤と比較する方が適切と考えて上表を作成した。(ORPは除く)